

# ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 保健医療学部看護学科

大学院人間総合科学研究科

心身健康科学専攻

名 前 吉田 浩子

作成日 2023年9月5日

## 1. 責務（何を行っているか、何を果たしているか）

### 担当講義

#### ○学部

心身健康科学科(通信制): ヒューマン II,III(必修)、人間総合科学の理解 I,II(選択必修)、人間総合科学の探求 I, II(選択必修)、英語速読演習(選択)、いのちの倫理(選択)、地球・生命・文化の歴史(選択)、文明のなりたち(選択)

看護学科 1 年次対象: 生命倫理 (必修)

ハ

ビリテーション学科 1 年次対象: 倫理学(必修) 生命倫理 (必修)

#### ○大学院人間総合科学科心身健康科学専攻

心身健康科学特講 III(M 必修)、心身健康科学研究(M 必修)

サイエンスコミュニケーション学(M 選択必修)、ストレス評価学(M 選択必修)、

健康情報計測学(M 選択必修)、健康情報処理学(M 選択必修)

生命文化特講 (M,D 選択必修)

心身健康科学特殊演習 I,II,III (D 必修、心身健康科学特別研究 (必修))

### 教育活動

研究委員会・紀要編集委員会(委員長)、ハラスメント対策委員会(委員長)

危機管理委員会(委員)、学生委員会(委員)、

アドミッション委員会学部等入試委員会(人間科学) (委員)

講義・演習においては、学部、大学院ともに、建学の精神に基づき、真の教養に裏付けられた「生きる力」の醸成と、人間性豊かな共生社会の実現に貢献できる人材の育成を念頭に、それぞれの時々の受講生のニーズに合わせた講義・演習の展開を心掛けています。

各委員会につきましては、各委員のみなさんのお考えによく耳を傾け、適宜関係各位のご協力を仰ぎながら、時々の案件に対して適切な対応を行っています。

## 2. 理念（教育に対する考え方）

教育とは、常に互いの関係性の中で成立する営みと考えています。教える側と教えられる側で、客観的知識の総量が異なることは当然ですが、それは特定の領域においてのみ真実であり、これまでも、教える側にありながら、実に多くの学びを教えられる側から与えられてきました。学生を育てることは教員の仕事ですが、教員もまた学生に育てられていることを実感します。すべての教育活動において、可能な限り、互いの双方向性を担保し、単なる知識に留まらず、受講生が自ら考え、自らの価値を再発見できるような、そんな機会の提供の場であることを希求しています。

その具体例は枚挙に暇がありませんが、例えば、本学の建学の精神のひとつでもある他のいのちと共生は、自分自身と自分以外の存在を理解したいと願うことから始まります。そのため、特に学部的一年生を対象とした講義では、単なる知識の伝達に留まらず、知的好奇心を刺激し、自ら学ぶこと、考えること、研究することの楽しさを伝え、現代社会をよりよく生きるために必要な豊かな人間性と倫理観の醸成に少しでも貢献できるように心がけています。

### 3. 方法（教育方法において大切にしていること）

受講生から寄せられる質問、意見、感想、講義方法に対する疑問から、日常生活の困りごとまで、あらゆるリアクションをひとつひとつ大切にしたいと願います。どんなにささやかで小さなことでも、自分の考えや思いを誰かから大切にされた記憶は、自分で物事を考え、自分を大切に生きるための糧となると思うからです。そのため、講義は従来からアクティブラーニングの手法を取り入れ、特にコロナ禍以降は、通学制の新生を対象とした講義では、8回の講義のリアクションペーパーをすべてUHAS経由のメールで送って頂き、簡単ではありますが、個別に返信しています。かなりの作業量になりますので、いつまで続けることができるかわかりませんが、受講生のメールの文面からこちらが学ぶことも多く、彼らも自分たちの世界観や現実を喜んでこちらに教えてくれていることがよくわかりますので、あと少し、頑張ってみたいと思います。

### 4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

大学院の担当学生さんたちについては、みなさんお忙しい中、本当に真摯によく取り組んで下さり、人によって必要な時間は異なりますが、それなりにそれぞれの目標とする学位を取得して修了されていますので、とてもありがたいことと思います。

通信の学部の学生さんは接点が少なく、どこまでお役に立てているかわからないことも多いですが、通学制の学部の学生さんたちは、それなりにこちらの意図したことをよく理解し、学びを深めておられると理解しています。ただし、アクティブラーニングの手法を取り入れていること、こちらとのやりとりがメールという文字ベースになることから、他者とのコミュニケーションが苦手、言語想起が困難等の特性を持った学生さんがおられた場合、十分に対応できていないことは確かで、この点については、長年の課題です。個別にご相談頂いた場合は対応していますが、講義期間中に適切なお声かけができないまま講義期間が終了することもあり、学生相談や教育支援との連携を模索しているところです。

### 5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

学部:講義出席者全員の単位取得が目標です。来年度末には達成できるかどうか・・・

大学院:修士、博士ともに、これまでと同様に、担当学生が目標とする学位取得を支援します。

必要な時間は学生さんによって異なりますが、少しでも前進できるように支援を続け、修士は2年、博士は3年から5年で学位取得できることを目標とします。

\* 表紙を含め、全体として、3～10ページ程度とします。

#### 【添付資料】

\* TPの記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙ください。

（シラバス、開発教材、学生アンケート等、特に特徴的なものを列挙し、必要に応じて、すぐに確認できるようにしておきます。）

講義内容についてはシラバス、受講生とのメールのやりとりの詳細が知りたい場合は、UHASの当該

科目の「質問箱」「お知らせ」をご参照ください。

担当大学院生の学位取得状況につきましては、本学紀要第2号をご参照ください。